

# 『正信偈』に親しむ ⑮

道 綽 禪 師

(本文・読み方)

(現代語訳)

道綽決聖道難証

禪師は、聖者をめざして  
難しい行をしてもだれも  
悟れないと決断し、

唯明浄土可通入

浄土を願う生き方だけが  
たすかる道だと明かした。

万善自力貶勤修

善を積んで自力でたすか  
ることは無理なこと、

円満徳号勸専称

無上の徳をそなえた仏の  
み名を称えよとすすめた。

三不三信誨慇懃

教えを疑う私たちの姿を  
悲しみ丁寧に指し示して

像末法滅同悲引

もし仏教が滅ぶときが来  
ようとも、仏は慈悲の心  
をもつて私たちをたすけ  
とげると教えられた。

一生造悪値弘誓

私たちの生涯は罪を造る  
ことが多いが、念仏して  
仏の誓いに出あうならば

至安養界証妙果

かならず、いのち安らぐ  
仏の世界に到ることが  
できると約束された。

## 道綽禪師の教え

凡夫にふさわしい教え

道綽禪師は五六二年に中国梓州に生まれま  
した。四十八歳の時、曇鸞大師の旧跡玄忠寺に  
参り、曇鸞大師の碑文を読んで、知恵浅く徳も  
低い自分が、自力による修行をしてさとりを  
開くということはありえないと、他力の教えに  
帰入されたのです。

正しく易しい道を選ぶ

旅行など目的地に行くにも、いろんな方法が  
あります。昔は歩くかかごなどを使ったが、今  
では、自動車・飛行機などが利用できます。  
仏教の目的地は、仏のさとりを開くことです  
が、そのためにいろんな方法がたてられます。  
どの方法を選ぶのが非常に大事であり、それ  
によって正しい信仰に生きるか邪道に迷うか  
の境目になるのです。

智慧の力に転じられ

私たち凡夫の生活は、欲・怒・不安の煩惱が  
次々と起こってきます。その凡夫が、修行や善  
を積み、自力で仏のさとりを開くことは所詮  
不可能なことなのです。仏は、凡夫をなんとか  
すくいたいと願われ、だれもができる行として  
念仏を用意されたのです。念仏を称えるとき、  
仏の智慧で深い心が呼びさまされるのです。  
悲しくつらい出来事であったとき、多くの  
人は、なんとかそこから逃れたいと思うでしょ  
う。自分の経験や都合で考え、すぐには出来事  
と向き合えないかとも思えます。

しかし、念仏を称えるうちに、智慧のはたら  
きによって心のまなこが開かれていくことが  
あります。その事実には、新たな意味を見出せる  
からかも知れません。そこまでいかななくても、  
ほんの少しでも軽い気持ちで事実を引受ける  
ことができるように思います。  
念仏を称え、仏の智慧に導かれて人生を歩む。  
ここにこそ、凡夫がたすかっていく道があると  
お示しくくださったのが道綽禪師であります。

